

かいごの大変さ

伊勢原市立高部屋小学校

五年

高木

來愛

私の家には、しょうがいのあるお母さんの弟がいます。名前は、大作といい、みんなからは、「だいちやん」とよばれています。

大ちゃんは、目が見えません。お話をできません。手を使うことも、歩くこともできません。だけど耳は、とてもよく聞こえるの

で、みんなの話し声や笑い声が聞こえると、

じつと声を聞き、声がする方へ体を向けてくれます。私が「大ちゃん」と声をかけると笑てくれるので、私はとてもうれしいです。

ただ、いいことはかりではなくて、おばあちゃんや、お母さんが大ちゃんのめんどきみる姿はとても大変そうです。身長が一六〇cmの背もあり、移動させる時は二人で行わなければいけないし、着替えやお風呂も長い時間じっとしていられないと、何をするにも家族の姿をみないと、話せない大ちゃんの気持

ちを考へて、声をかけたり、歌をうたつてあ

げたり、車に来てドライブへ行つたりと、
じれもかんたんにできることではないことを
みんなが大ちゃんのために何ができるかを考
えて一生けんめいにめんどうをみている姿を
みると、本当にすごいなあと鬼ります。

だから、私はこの夏休みおばあちゃんやお母
さんを助けるために、大ちゃんのめんどうを
みよう！と思いつき、大ちゃんのお手伝いを
していきます。お手伝いをして初めてかいごの

大変さを知り、これから先も私に出来るこ
とを大ちゃんや家族のために協力していきたい
と思つきした。

私は、やさしい家族や大ちゃんが大好きで
す。

最後に大ちゃんがみんなと一緒にいら
れなとうれしいです。